

第 90 回 幹 事 会

平成 22 年 2 月 25 日

日 本 学 術 会 議

第90回幹事会議事次第

日時：平成22年2月25日（木）14：00

- | | |
|--------------|---|
| 非公開審議事項 | |
| 1 委員会関係 | <p>提案1 国際委員会運営要綱の一部改正及び委員の決定</p> <p>提案2 分野別委員会運営要綱の一部改正及び委員の決定等</p> |
| 2 外部委員候補者の推薦 | 提案3 外部委員候補者の推薦 |
| 3 その他 | |
| 審議事項 | |
| 1 提言等 | <p>提案4 報告「黄砂・越境大気汚染物質の地球規模循環の解明とその影響対策」</p> <p>提案5 提言「生物多様性の保全と持続可能な利用：学術分野からの提言」</p> <p>提案6 提言「学術の大型施設計画・大規模研究計画-企画・推進策の在り方とマスタープラン策定について-」</p> |
| 2 規則等 | 提案7 日本学術会議の意思の表出の政府内への周知方法 |
| 3 国際会議関係 | <p>提案8 平成22年度代表派遣実施計画の決定</p> <p>提案9 平成22年度代表派遣（平成22年4月～6月分）</p> <p>提案10 アジア学術会議に関する各国機関等との打合せに係る会員の派遣</p> <p>提案11 G8学術会議への会員の派遣</p> <p>提案12 国際科学会議ユニオン会員会合及び国際科学会議第102回理事会（Meeting of ICSU International Scientific Union Members 及び ICSU 102nd Meeting of Executive Board）出席に係る会員の派遣</p> <p>提案13 STS forum 評議会（The Science and Technology in Society (STS) forum Council Meeting）出席に係る会員の派遣</p> <p>提案14 インターアカデミーカウンスル理事会及びIAC / IAP ジョイントミーティング等への会員の派遣</p> <p>提案15 平成24年度開催国際会議の共同主催候補</p> |
| 4 シンポジウム等 | <p>提案16 シンポジウム「若手アカデミーとは何か（仮題）」</p> <p>提案17 「25%CO2削減に向けたものづくり戦略」</p> <p>提案18 公開シンポジウム「ネットワーク社会と知識労働：コモンウェルスの構築を目指して（仮）」</p> <p>提案19 公開シンポジウム「『生命動態システム科学』シンポジウム～生命の動的理解・予測・制御を目指して～」</p> <p>提案20 公開シンポジウム「心と身体から教育を考える」</p> <p>提案21 公開シンポジウム「農業工学分野におけるグローバル人材養成への取組と実践」</p> <p>提案22 シンポジウム「環境・エネルギーと電気電子情報技術」</p> <p>提案23 安全工学シンポジウム2010</p> <p>提案24 「第29回 混相流シンポジウム」</p> <p>提案25 公開シンポジウム「“健康な食習慣”の獲得・健康なコミュニティの形成 - 身体活動、睡眠、タバコと食の関連、及びその波及から - 」</p> <p>提案26 「アルプス・ヒマラヤ帯における地形プロセスとその発達に関する国際シンポジウム」</p> <p>提案27 シンポジウム「東アジアにおける現代の地表プロセスと長周期環境変動（Present Earth Surface Processes and Long-term Environmental Changes in East Asia）」</p> |
| 5 後援 | 提案28 国内会議 |
| その他 | |

資料2

第90回幹事会（2月25日）出席者一覧

会長	金澤 一郎
副会長	大垣 眞一郎
副会長	鈴村 興太郎
副会長	唐木 英明

第一部 部長	広渡 清吾
--------	-------

第二部 副部長	北島 政樹
第二部 幹事	山本 正幸
第二部 幹事	鷲谷 いづみ

第三部 副部長	後藤 俊夫
第三部 幹事	池田 駿介
第三部 幹事	海部 宣男

事務局長	竹林 義久
------	-------

諸 報 告

	ページ
第 1 前回幹事会以降の経過報告	
1 会長等出席行事	1
2 審議付託等	1
3 賞等の推薦	2
4 委員会委員の辞任	2
第 2 各部・各委員会等報告	
1 部会の開催とその議題	3
2 幹事会附置委員会の開催とその議題	3
3 機能別委員会の開催とその議題	4
4 分野別委員会の開催とその議題	5
5 課題別委員会の開催とその議題	9
6 記録	10
7 サイエンスカフェの開催	10
8 総合科学技術会議報告	10
9 慶弔	11

第 1. 前回幹事会以降の経過報告

1 会長等出席行事

月 日	行 事 等	対 応 者
1 月 28 日(木)	総合科学技術会議有識者会合	金澤会長、竹林局長
2 月 2 日(火)	日本学術会議北海道地区会議学術講演会(北海道大学) ご講演	唐木副会長
2 月 3 日(水)	総合科学技術会議本会議	金澤会長
2 月 4 日(木)	総合科学技術会議有識者会合	金澤会長、竹林局長
	第 2 6 回井上科学振興財団 井上學術賞・井上研究奨励賞並びに第 2 回井上リサーチアワード贈呈式 会長祝辞代読	鈴村副会長
2 月 10 日(水)	総合科学技術会議有識者会合	金澤会長
2 月 18 日(木)	総合科学技術会議有識者会合	金澤会長、竹林局長
	総合科学技術会議 ライフサイエンス P T	
2 月 23 日(火)	イスラエル科学アカデミー Yaari 会長の会長表敬	金澤会長、鈴村副会長、綱木次長

2 審議付託等

件 名	申 請 者	審議付託先
呼吸の日記念フォーラム 2 0 1 0 の後援	社団法人日本呼吸器学会理事長 財団法人結核予防会理事長 社団法人日本医師会会長	第二部
「日本のテレビは何故北を向く？」 - ホームリビングと人間工学の 新機軸 - 公開講座の後援	一般社団法人日本人間工学会理事長	第二部 第三部
第 9 9 回日本病理学会総会 シンポジウム「新しい世紀の病理解剖」の後援	第 99 回日本病理学会総会会長	第二部
防災シンポジウム in 松山の後援	社団法人日本河川協会会長	第三部
日本土壌微生物学会シンポジウムの後援	日本土壌微生物学会会長	第二部
大阪大学蛋白質研究所運営協議会委員候補者の推薦	大阪大学蛋白質研究所長	第二部
東京大学海洋研究所研究船共同利用運営委員会委員候補者の推薦	東京大学海洋研究所長	地球惑星科学委員会
日本学術会議協力学術研究団体の指定	西日本哲学会他	科学者委員会

3 賞等の推薦

件 名	照 会 先	備 考
本田賞	各部	照会中
井上春成賞	各部	照会中

4 委員会委員の辞任

- 地域研究委員会・地球惑星科学委員会合同地理教育分科会環境・防災地理教育小委員会
海津 正倫（平成21年12月27日付）

第2. 各部・各委員会報告

1 部会の開催とその議題

(1) 第一部拡大役員会(第9回)・日本の展望委員会 人文・社会科学作業分科会(第11回)合同会合(1月28日)

「日本の展望 - 人文・社会科学からの提言」査読結果および最終補正版について 第1部関連分野別報告案の査読結果について

学術の大型研究計画検討分科会に関わる第1部の取組みについて

第1部における国際協力分科会の設置(AASSREC / IFSSO分科会の改組)について 第1部夏季部会の公開シンポジウム企画について その他

(2) 第三部拡大役員会(第17回)(1月29日)

平成22年度第三部役員会日程について

「日本の展望 - 理学・工学からの提言2010(案)」について

「分野別委員会の展望(報告)(案)」について

今後の第三部の活動について 日本学術会議の機能強化について

学協会連絡協議会について 平成22年度第三部夏季部会について

その他

(3) 第三部役員会(第4回)(2月12日)

第90回幹事会提案について

2 幹事会附置委員会の開催とその議題

(1) 日本の展望委員会 起草分科会(第12回)(1月28日)

意見聴取の結果について

「日本の展望 - 学術からの提言2010」(最終案)の検討

「日本の展望 - 学術からの提言2010」の要約版・英語版の作成について

「日本の展望 - 学術からの提言2010」作業分科会諸「提言」および分野別の諸「報告」の冊子の刊行(様式・体裁等)について

「日本の展望 - 学術からの提言2010」に基づく「勧告」(案)の検討

今後の進め方について その他

(2) 日本の展望委員会 基礎科学の長期展望分科会(第13回)(2月8日)

提言(案)とりまとめについて その他

(3) 若手アカデミー委員会(第3回)(2月8日)

若手アカデミーに関する国際ワークショップ(2月・ドイツ)について

若手アカデミー委員会 シンポジウムの開催について その他

- (4) 日本の展望委員会 安全とリスク分科会 (第 4 回)(2 月 1 2 日)
日本の展望委員会 - 安全とリスク分科会からの提言について その他

3 機能別委員会の開催とその議題

- (1) 科学者委員会 学術の大型研究計画検討分科会 (第 1 3 回)(2 月 1 日)
学術の大型装置計画・大規模研究計画最終リスト案の取りまとめ
提言素案の検討 今後の進め方について その他
- (2) 科学者委員会 学術誌問題検討分科会 (第 8 回)(2 月 2 日)
提言案の最終検討 学術誌に関するアンケート結果の中間報告
今後の進め方について その他
- (3) 科学と社会委員会 科学力増進分科会 (第 1 1 回)(2 月 3 日)
サイエンスアゴラ 2 0 0 9 の報告 サイエンスカフェについて
規定の一部改定について
(サイエンスカフェに関する今後の対応について (2 0 0 7 年 1 1 月 2 2 日))
今期活動について その他
- (4) 科学者委員会 知的財産検討分科会 (第 6 回)(2 月 3 日)
提言案最終版の審議、取りまとめ その他
- (5) 科学者委員会 学協会の機能強化方策検討等分科会 (第 8 回)(2 月 8 日)
学術団体のあり方に関する調査研究報告について その他
- (6) 国際委員会 (第 6 回)(2 月 8 日)
平成 22 年度代表派遣 (実施計画) について 国際委員会運営要綱の一部改正について G 8 学術会議について
IAP 関係の会議について
・ IAP 執行委員会、IAP 生物多様性カンファレンス、IAP 総会
・ Strengthening the Collaboration between the AASA Clean Water Programme and the IAP Water Programme
日本・カナダ女性研究者交流事業について 世界科学会議 2009 (World Science Forum 2009) について 最近の ICSU (国際科学会議) 関係の活動について その他
- (7) 国際委員会 ICSU 対応小分科会 (第 1 回)(2 月 8 日)
委員長の互選 ICSU の投票権について その他

- (8) 国際会議主催等検討分科会 (第 3 回)(2 月 9 日)
ヒアリング審査・選定についての事務説明 平成 2 4 年度共同主催申請国際
会議ヒアリング審査 審議・選定 その他
- (9) 科学者委員会 学術の大型研究計画検討分科会 (第 1 4 回)(2 月 1 5 日)
提言素案の取りまとめ その他
- (10) 科学者委員会 広報分科会 (第 9 回)(2 月 1 8 日)
日本学術会議ホームページのリニューアルについて
- (11) 科学者委員会 (第 2 0 回)(2 月 2 4 日)
提言「学術の大型施設計画・大規模研究計画 - 企画・推進策の在り方とマスタ
ープラン策定について - 」(案)

4 分野別委員会の開催とその議題

第一部担当

- (1) 史学委員会 国際歴史学会議等分科会 (第 3 回) 及び国際歴史学会議
小委員会 (第 2 回) 合同会議 (1 月 2 9 日)
2 0 0 9 年 9 月東京開催の理事会などについての報告
2 0 1 0 年 8 月の C I S H 大会開催地希望問題について その他
- (2) 社会学委員会 メディア・文化研究分科会 (第 5 回)(1 月 3 0 日)
分科会の来年度の活動について その他
- (3) 社会学委員会 福祉職・介護職育成分科会 (第 8 回)(2 月 5 日)
提言について その他
- (4) 社会学委員会 社会福祉学分科会 (第 7 回)(2 月 5 日)
3 月 2 7 日のシンポジウムに向けての準備 その他
- (5) 経済学委員会 資産市場とマクロ経済分科会 (第 3 回)(2 月 8 日)
高安、宮越、翁の各委員からの発表 その他
- (6) 心理学・教育学委員会 心の先端研究と心理学専門教育分科会 (第 3 回)
(2 月 1 3 日)
「日本の展望」 今後の具体的な拠点連携計画
第 2 1 期の課題と第 2 2 期の展望 その他

- (7) **地域研究委員会 多文化共生分科会** (第 7 回)(2 月 1 5 日)
 趙衛国氏 「中国系ニューカマー高校生の異文化適応」
 宮島喬氏 「母語、母文化の保持、学習の困難さ - ブラジル人第二世代の場合」
 討論 分科会シンポジウム その他
- (8) **法学委員会 ファミリー・バイオレンス分科会** (第 5 回)(2 月 2 0 日)
 報告：岩井委員「ファミリーバイオレンス分科会提言の執筆案」 その他
- (9) **法学委員会 法史学・歴史法社会学分科会** (第 2 回)(2 月 2 2 日)
 法科大学院向け法史素養テスト結果のまとめ方について
 新プロジェクト「法律学の中における法史学・歴史法社会学の位置づけ」に
 ついて その他
- (10) **法学委員会 生殖補助医療と法分科会** (第 5 回)(2 月 2 3 日)
 水野委員からの報告 (仮題：生殖補助医療と親子関係) その他

第二部担当

- (1) **臨床医学委員会 脳とこころ分科会** (第 2 回)(1 月 2 8 日)
 「学術の動向」2009 年 1 月号 特集「脳科学領域における適切な臨床研究
 を推進するために」について、今後の進め方。
 「日本の展望 - 学術からの提言 2010」(素案) あるいは第二部 (生命科学)
 において作成中の「日本の展望 - 生命科学からの提言」(案) を踏まえた、各分
 科会における今後 10 ~ 20 年の間に取り組み、解決すべき課題に関するアンケ
 ートについて 3 分科会合同シンポジウム報告について その他
- (2) **健康・生活科学委員会 看護学分科会** (第 6 回)(1 月 2 8 日)
 高度実践看護師のコンペテンシー、臨床での運用、教育制度、認定制度に
 ついて 命の教育班の進捗状況
 看護系学会協議会との共催検討会について
 その他 (今後の予定、第 7 回日程調整など)
- (3) **基礎生物学委員会・統合生物学委員会・農学委員会合同 植物科学分科会**
 (第 3 回)(2 月 1 日)
 GM 植物報告書 (最終版) について 今後の活動方針について その他
- (4) **健康・生活科学委員会 高齢者の健康分科会** (第 6 回)(2 月 1 日)
 3 月 1 3 日 (土) 開催のシンポジウムの運営方法とまとめ方の確認
 同シンポジウムの周知のしかたの情報交換

来年度のシンポジウムの計画についての情報交換
報告書についての意見交換 その他

- (5) **臨床医学委員会 障害者との共生分科会** (第 6 回)(2 月 1 日)
木倉敬之氏の講演 各小委員会報告 今後の委員会の進め方 その他

- (6) **統合生物学委員会** (第 8 回)(2 月 2 日)
「生物多様性の保全と再生に向けた学術分野からの提言」の検討
統合生物学委員会の公開講演会「生物多様性をめぐる科学と社会の対話」に
ついて その他

- (7) **健康・生活科学委員会 生活科学分科会** (第 9 回)(2 月 9 日)
報告事項 公開講演会について
生活科学系コンソーシアム主催博士課程論文発表会の打合せについて
その他

- (8) **歯学委員会 臨床系歯学分科会** (第 4 回)(2 月 1 2 日)
日本の展望委員会 - 生命科学からの提言案について
日本の展望委員会 - 歯学委員会からの報告書案について その他

- (9) **基礎医学委員会、臨床医学委員会合同 医学教育分科会** (第 6 回)
(2 月 1 2 日)
対外報告に関して その他

- (10) **歯学委員会** (第 6 回)(2 月 1 2 日)
日本の展望委員会 - 生命科学からの提言案について
日本の展望委員会 - 歯学委員会からの報告案について その他

- (11) **農学委員会 林学分科会** (第 3 回)(2 月 1 7 日)
「林学分野の展望」原稿の取扱いと今後の活動について その他

- (12) **健康・生活科学委員会 健康・スポーツ科学分科会** (第 6 回)(2 月 1 9 日)
各WGの活動報告
1) 指針の策定 (提言) < 大築委員 >
2) 男女共同参画 < 飯田委員 >
3) ターミノロジー < 寒川委員 >
4) 若手研究者育成 < 栗原委員 >
5) 将来展望 < 福永委員 >
6) 運動と心社会性 < 杉原委員 >
日本スポーツ体育健康科学学術連合関係報告 < 高松委員 > その他

- (13) **農学委員会 農業経済学分科会** (第5回)(2月20日)
北東アジアにおける経済連携強化に関する提言内容の検討 その他
- (14) **臨床医学委員会 感覚器分科会** (第5回)(2月23日)
「学術の動向」の感覚器医学の特集と発行月について
平成21年8月の市民公開講座の記録の校正終了と刊行の方法について
平成22年8月の市民公開講座、主題「感覚器(視覚と聴覚)と社会のつながり」(仮)のプログラムについて その他

第三部担当

- (1) **情報学委員会 セキュリティ・ディペンダビリティ分科会** (第4回)
(1月29日)
情報処理学会全国大会イベント企画について
30年後の未来予想としてのセキュリティ・ディペンダビリティ分野のロードマップについて その他
- (2) **材料工学委員会** (第2回) **材料工学委員会 材料工学将来展開分科会**
(第2回) **合同会議** (1月29日)
日本の展望について その他
- (3) **総合工学委員会 I C O分科会** (第5回)(2月3日)
経過報告 公開シンポジウムについて その他
- (4) **土木工学・建築学委員会 地球環境の変化に伴う水害・土砂災害への対応分科会** (第5回)(2月4日)
話題提供 台風・高潮の最先端予測技術
1) 九州大学工学院沿岸海洋研究室の橋本典明教授
2) 港湾空港技術研究所の河合康弘チームリーダー
今後の活動方針について その他
- (5) **地球惑星科学委員会 地球・惑星圏分科会** (第5回)(2月9日)
地球惑星科学における大型研究のあり方について
大学における地球惑星科学の研究教育の進め方について その他
- (6) **総合工学委員会・土木工学・建築学委員会合同 W F E O分科会** (第8回)
(2月10日)
2015 W E C日本招致について その他

- (7) **総合工学委員会** (第 3 回)(2 月 1 2 日)
「総合工学の展望 2 0 1 0」について 第三部拡大役員会報告
各分科会からの報告 その他

- (8) **土木工学・建築学委員会 国土と環境分科会** (第 5 回)(2 月 1 9 日)
ワークショップの打ち合わせ その他

- (9) **電気電子工学委員会 電気電子工学企画分科会** (第 5 回)(2 月 2 3 日)
「日本の展望」原稿に関して
シンポジウム「環境・エネルギーと電気電子情報技術」について その他

- (10) **電気電子工学委員会 制御・パワー工学分科会** (第 4 回)(2 月 2 3 日)
「日本の展望」原稿に関して 今後の活動方針 その他

- (11) **地球惑星科学委員会 社会貢献分科会** (第 7 回)(2 月 2 4 日)
「日本の展望」改訂版 「提言」案の検討
地球惑星科学のアウトリーチについて その他

- (12) **情報学委員会 国際サイエンスデータ分科会** (第 3 回)(2 月 2 4 日)
この分野における大型プロジェクトのコンテンツに関するキーワードに
ついて その他

5 課題別委員会の開催とその議題

- (1) **人間の安全保障とジェンダー委員会** (第 6 回)(1 月 2 9 日)
委員会の論点の整理について 委員会の設置延長について
シンポジウムの開催について その他

- (2) **大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会 大学と職業との接続検討分科会** (第 1 5 回)(2 月 9 日)
有識者からのヒアリングについて 報告書案について その他

- (3) **大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会 教養教育・共通教育検討分科会** (第 1 4 回)・**日本の展望委員会 知の創造分科会** (第 1 2 回)
合同分科会 (2 月 1 0 日)
報告書案について その他

- (4) **労働雇用環境と働く人の生活・健康・安全委員会** (第 5 回)(2 月 1 2 日)
現状と課題について - 各委員の専門的な見地からの報告

シンポジウムについて 今後の審議の進め方について その他

(5) 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会 質保証枠組み検討分科会
(第 1 2 回)(2 月 2 2 日)
報告書案について その他

(6) 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会 大学と職業との接続検討
分科会 (第 1 6 回)(2 月 2 3 日)
報告書案について その他

6 記録

第二部関係

文書番号				委員会等名	標題
作成日	委員会No	受付No			
SCJ第21期 - 220202 - 21440200 - 006				食料科学委員会畜産学分科会	畜産物のはたす役割(食肉、乳、卵、蜂蜜)

7 サイエンスカフェの開催

(1) 2 月 1 9 日 (金) 1 8 : 3 0 ~ 2 0 : 3 0
場 所 : サロンド富山房 F o l i o
テーマ : 第四の生物 ヒト
講 師 : 星 元紀 (放送大学教授、東工大名誉教授)
室伏 きみ子 (日本学術会議第二部会員、お茶の水女子大学教授)

(2) 2 月 2 6 日 (金) 1 9 : 0 0 ~ 2 0 : 3 0
場 所 : 文部科学省情報ひろばラウンジ
テーマ : 世界地図 4 0 0 年目のイノベーション
講 師 : 碓井 照子 (日本学術会議会員、奈良大学教授)
鳴川 肇 (オーサグラフ株式会社代表)
ファシリテーター : 毛利 衛 (日本学術会議第三部会員、
日本科学未来館長・宇宙飛行士)

(3) 3 月 7 日 (日) 1 5 : 0 0 ~ 1 7 : 0 0
場 所 : 東京都臨床医学総合研究所 2 階講堂
テーマ : スギ花粉症 治療の最前線 (サイエンスカフェ i n 上北沢)
話題提供 : 廣井 隆親 (東京都臨床医学総合研究所
花粉症プロジェクト プロジェクトリーダー)
ゲスト : 飯島 英樹 (大阪大学大学院医学系研究科消化器内科学医学部講師)

8 総合科学技術会議報告

1. 本会議

(第 8 8 回)

2 月 3 日

- (1) 最先端・次世代研究開発支援プログラム運用基本方針
- (2) 科学・技術関係予算の重点化・効率化に向けた取組について

2. 専門調査会

- 基本政策専門調査会 ライフサイエンス P T (第 1 5 回) 2 月 1 8 日
 - (1) 平成 2 2 年度概算要求における科学技術関係施策の優先順位付けの結果について
 - (2) その他

3. 総合科学技術会議有識者議員会合

- | | | |
|---|-----------|----------|
| ・ | 2 月 4 日 | * 会長出席 |
| ・ | 2 月 1 8 日 | * 会長出席 |
| ・ | 2 月 2 5 日 | * 会長出席予定 |

9 慶弔

- ご逝去

黒木 三郎 (くろき さぶろう) 8 8 歳 2 月 2 0 日 第 1 0 ~ 1 2 期会員
早稲田大学名誉教授

審 議 事 項

		頁
審議事項		
1 提言等	提案4 報告「黄砂・越境大気汚染物質の地球規模循環の解明とその影響対策」	1
	提案5 提言「生物多様性の保全と持続可能な利用：学術分野からの提言」	2
	提案6 提言「学術の大型施設計画・大規模研究計画-企画・推進策の在り方とマスタープラン策定について-」	3
2 規則等	提案7 日本学術会議の意思の表出の政府内への周知方法	4
3 国際会議関係	提案8 平成 2 2 年度代表派遣実施計画の決定	10
	提案9 平成 2 2 年度代表派遣（平成 2 2 年 4 月～ 6 月分）	12
	提案10 アジア学術会議に関する各国機関等との打合せに係る会員の派遣	14
	提案11 G 8 学術会議への会員の派遣	15
	提案12 国際科学会議ユニオン会員会合及び国際科学会議第102回理事会（Meeting of ICSU International Scientific Union Members 及び ICSU 102nd Meeting of Executive Board）出席に係る会員の派遣	19
	提案13 STS forum 評議会（The Science and Technology in Society (STS) forum Council Meeting）出席に係る会員の派遣	20
	提案14 インターアカデミーカウンシル理事会及びIAC / IAP ジョイントミーティング等への会員の派遣	21
	提案15 平成 2 4 年度開催国際会議の共同主催候補	25
4 シンポジウム等	提案16 シンポジウム「若手アカデミーとは何か（仮題）」	27
	提案17 「2 5 % C O 2 削減に向けたものづくり戦略」	29
	提案18 公開シンポジウム「ネットワーク社会と知識労働：コモンウエルの構築を目指して（仮）」	31
	提案19 公開シンポジウム「『生命動態システム科学』シンポジウム～生命の動的理解・予測・制御を目指して～」	33
	提案20 公開シンポジウム「心と身体から教育を考える」	36
	提案21 公開シンポジウム「農業工学分野におけるグローバル人材養成への取組と実践」	38
	提案22 シンポジウム「環境・エネルギーと電気電子情報技術」	40
	提案23 安全工学シンポジウム2010	42
	提案24 「第29回 混相流シンポジウム」	44
	提案25 公開シンポジウム「“健康な食習慣”の獲得・健康なコミュニティの形成 - 身体活動、睡眠、タバコと食の関連、及びその波及から - 」	46
	提案26 「アルプス・ヒマラヤ帯における地形プロセスとその発達に関する国際シンポジウム」	48
	提案27 シンポジウム「東アジアにおける現代の地表プロセスと長周期環境変動（Present Earth Surface Processes and Long-term Environmental Changes in East Asia）」	50
5 後援	提案28 国内会議	52

4	
幹事会	9 0

提 案

報告「黄砂・越境大気汚染物質の地球規模循環の解明とその影響対策」

- 1 提 案 者 農学委員会委員長
- 2 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 農学委員会風送大気物質問題分科会においてこれまで審議してきた結果を別添のとおりとりまとめたので、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第四号の「報告」として取り扱うこと

5	
幹事会	9 0

提 案

提言「生物多様性の保全と持続可能な利用：学術分野からの提言」

- 1 提 案 者 統合生物学委員会委員長
- 2 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 生物多様性の保全と持続可能な利用：学術分野からの提言を別添のとおり取りまとめたので、関係機関に対する提言として、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第三号の「提言」として取り扱うこと

6	
幹事会	9 0

提 案

提言「学術の大型施設計画・大規模研究計画-企画・推進策の在り方とマスタープラン策定について-」

- 1 提 案 者 科学者委員会委員長
- 2 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 学術の大型施設計画・大規模研究計画-企画・推進策の在り方とマスタープラン策定について-を別添のとおり取りまとめたので、関係機関に対する提言として、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第三号の「提言」として取り扱うこと

7	
幹事会	90

提 案

日本学術会議の意思の表出の政府内への周知方法について

- 1．提案者 ： 会長
- 2．議 案 ： 標記について、別紙案のとおり決定すること
- 3．提案理由 ： 意思の表出を行った際の政府内への周知方法に係る規程について、改正の必要があるため。

日本学術会議の意思の表出の政府内への周知方法について（案）

平成 年 月 日
日本学術会議第 回幹事会決定

日本学術会議の意思の表出の政府内への周知方法については、以下のとおり取り扱うこととする。ただし、会長が必要があると認める場合には、以下にかかわらず、別の取扱いをすることができるものとする。

意思の表出の種類	周知方法
勸告	・会長より、内閣総理大臣に対して、手交（手交の際は内閣総理大臣宛て会長名の公文書を添付する。） ・会長より、各大臣（内閣総理大臣を除く。）宛て、公文書を添付し配付。 ・事務連絡により、内閣官房副長官、内閣官房副長官補（内政）、内閣総務官及び各省に配付（会長がこれらに準ずると認める配付先がある場合には、当該配付先にも併せて配付するものとする。）
要望 声 明	・会長より、各大臣宛て、公文書を添付し配付。 ・事務連絡により、内閣官房副長官、内閣官房副長官補（内政）、内閣総務官及び各省に配付（会長がこれらに準ずると認める配付先がある場合には、当該配付先にも併せて配付するものとする。）
提 言 報 告	・事務連絡により、各省に配付（会長がこれに準ずると認める配付先がある場合には、当該配付先にも併せて配付するものとする。）
答 申	・会長より、諮問者に対して、答申を手交（手交の際は諮問者宛て会長名の公文書を添付する。） ・必要に応じ、事務連絡により、各省に配付（会長がこれに準ずると認める配付先がある場合には、当該配付先にも併せて配付するものとする。）
回 答	・会長より、審議依頼者に対して、回答を手交（手交の際は審議依頼者宛て会長名の公文書を添付する。）ただし、審議依頼者が大臣、副大臣及び大臣政務官（会長がこれらに準ずると認める者を含む。）のいずれでもない場合には、審議依頼者あて会長名の公文書を添付し、配付することで代えることができる。 ・必要に応じ、事務連絡により、各省に配付（会長がこれに準ずると認める配付先がある場合には、当該配付先にも併せて配付するものとする。）

G 8 学術会議の共同声明等については、勸告の取扱いに準じる。

附 則
この決定は、決定の日から施行する。

（参考）

内閣府内における配付先は、意思の表出の種類にかかわらず、以下のとおりとする。ただし、会長が必要があると認める場合には、以下のほか、その他の関係部局等に対し配付するものとする。

特命担当大臣（科学技術政策）

日本学術会議を担当する副大臣

日本学術会議を担当する大臣政務官

事務次官

日本学術会議を担当する内閣府審議官

官房長

大臣官房総括審議官

大臣官房総務課

大臣官房企画調整課

総合科学技術会議有識者議員

政策統括官（科学技術政策・イノベーション担当）

新旧対照表

新規規程（案）		現行規程	
日本学術会議の意思の表出の政府内への周知方法について 平成____年__月__日 日本学術会議第____回幹事会決定 日本学術会議の意思の表出の政府内への周知方法については、以下のとおり取り扱うこととする。<u>ただし、会長が必要があると認める場合には、以下にかかわらず、別の取扱いをすることができるものとする。</u>		日本学術会議の勸告等の周知方法について 平成19年5月30日 日本学術会議会長 日本学術会議が発表する勸告等の政府内への周知方法については、<u>原則として、以下のとおり取扱うこととする。</u>	
意思の表出の種類	周知方法	報告のレベル	取扱い
勸告	・会長より、内閣総理大臣に対して、手交（手交の際は内閣総理大臣宛て会長名の公文書を添付する。）。 ・会長より、各大臣（内閣総理大臣を除く。）宛て、公文書を添付し配付。 ・事務連絡により、内閣官房副長官、内閣官房副長官補（内政）、内閣総務官及び各省に配付（会長がこれらに準ずると認める配付先がある場合には、当該配付先にも併せて配付するものとする。）。	勸告	・会長より、内閣総理大臣に対して、手交 ・会長より、各大臣宛て、公文書を添付し配付 ・事務連絡により、官房副長官、官房副長官補、内閣特別顧問、内閣総務官、議員懇話会メンバー、総合科学技術会議有識者議員、各省庁に配付
要望 声明	・会長より、各大臣宛て、公文書を添付し配付。 ・事務連絡により、内閣官房副長官、内閣官房副長官補（内政）、内閣総務官及び各省に配付（会長がこれらに準ずると認める配付先がある場合には、当該配付先にも併せて配付するものとする。）。	要望	・会長より、各大臣宛て、公文書を添付し配付 ・事務連絡により、官房副長官、官房副長官補、内閣特別顧問、内閣総務官、議員懇話会メンバー、総合科学技術会議有識者議員、各省庁に配付
		声明	

新規規程（案）	現行規程
のとおりとする。ただし、会長が必要があると認める場合には、以下のほか、その他の関係部局等に対し配付するものとする。 <u>特命担当大臣（科学技術政策）</u> <u>日本学術会議を担当する副大臣</u> <u>日本学術会議を担当する大臣政務官</u> 事務次官 <u>日本学術会議を担当する内閣府審議官</u> 官房長 <u>大臣官房総括審議官</u> <u>大臣官房総務課</u> <u>大臣官房企画調整課</u> <u>総合科学技術会議有識者議員</u> 政策統括官（科学技術政策・イノベーション担当）	のとおりとし、必要に応じて、内閣府本府幹部会等での配付を行う。 事務次官 <u>内閣府審議官（日本学術会議担当）</u>（順番入替え） 官房長（順番入替え） <u>官房審議官（官房担当）</u> 官房総務課 <u>官房管理室</u> 政策統括官（科学技術政策担当） その他関係の部局

8	
幹事会	90

提 案

平成22年度代表派遣実施計画について

- 1 提案者 会長
- 2 議 案 標記について、別紙のとおり決定すること。
- 3 提案理由 「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」第18条第3項に基づくものである。

<参考>「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」(抄)

(派遣実施計画の作成)

- 第18条 国際委員会は、前条第4項の決定に基づき、次の各号に掲げる区分に基づき、配分されることとなった旅費の範囲内で、それぞれ様式第5に定める実施計画案を作成し、会議開催年度の前年度の2月中に会長に提出しなければならない。
- (1) 前条第1項第1号に係る代表を派遣すべき会議
 - (2) 前条第1項第2号に係る代表を派遣すべき会議等
 - (3) 前条第1項第3号に係る代表を派遣すべき会議
- 2 国際委員会は、前項の実施計画案の作成に当たっては、加入国際学術団体の総会を優先しなければならない。
- 3 会長は、前項の規定により提出のあった実施計画案に基づき、様式第6に定める代表派遣実施計画(以下「派遣実施計画」という。)を作成して、会議開催年度の前年度の3月中に開催される幹事会の承認を得るものとする。

9	
幹事会	90

提 案

平成22年度代表派遣について（平成22年4月～6月分）

- 1 提案者 会長
- 2 議 案 標記について、別紙のとおり実施すること。
- 3 提案理由 「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」第19条の規定に基づくものである。

<参考>「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」(抄)

（派遣者の選考）

第19条 会長及び関係委員長は、幹事会で承認された派遣実施計画に基づき、代表を派遣すべき会議等（以下「代表派遣会議」という。）のそれぞれの内容等に応じて、学術会議会員（以下「会員」という。）の中から適任者を選考し、様式第7に定める代表派遣会議候補者推薦書により派遣候補者を会長に推薦するものとする。ただし、学術会議連携会員（以下「連携会員」という。）の中に適任者があると認められる場合は、その者を候補者として推薦することができる。

- 2 会長は、前項の規定により推薦された派遣候補者について、原則として代表派遣会議が開始される日の1か月前までに開かれる幹事会の議決を経た上、学術会議の代表として派遣される者（以下「派遣者」という。）として派遣するものとする。

10	
幹事会	90

提 案

アジア学術会議に関する各国機関等との打合せに係る会員の派遣

- 1 提 案 者 国際委員会委員長
- 2 議 案 標記について、下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 アジア学術会議に関する各国機関等との打合せのため以下のとおり会員を派遣することとしたい。
- 4 派遣者 村岡 洋一（第三部会員、アジア学術会議事務局長）
白田 佳子（第一部会員、アジア学術会議分科会委員）
- 5 派遣期間 (1) 平成22年3月10日（水）～12日（金）白田会員
(2) 平成22年3月22日（月）～27日（土）村岡会員、白田会員
- 6 派遣場所 (1) フィリピン（マニラ）
(2) インドネシア（ジャカルタ）、タイ（バンコク）及び
マレーシア（クアラルンプール）
- 7 派遣趣旨 アジア学術会議（Science Council of Asia：SCA）は、アジア地域における学術的な共同研究と協力を促進するため、11カ国19機関のアカデミー等を構成メンバーとして2000年に設立された組織であり、日本学術会議が事務局を務めている。2001年からメンバー国の持回りにより毎年開催しており、2011年のモンゴル開催で一巡目を迎える予定。
一巡後の新体制に向けて策定した、新体制に関する提案書（運営に関する効率化及び活動の一層の活性化等）に対する各国機関からの反応等を踏まえて、今後、特に重要な役割を担うと考えられるメンバー機関等を訪問し、情報・意見交換及び協力依頼等を行うこととする。

1 1	
幹事会	9 0

提 案

G 8 学術会議への会員の派遣

- 1 提 案 者 国際委員会委員長
- 2 議 案 標記について、下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 G 8 学術会議に以下のとおり会員を派遣することとしたい。
- 4 派遣者 唐木英明（第二部会員）
五十嵐隆（第二部会員）
- 5 会 期 平成 2 2 年 4 月 6 日（火）～ 8 日（木）
- 6 派遣場所 オタワ（カナダ）
- 7 会議詳細は別紙参照

1 2	
幹事会	9 0

提 案

国際科学会議ユニオン会員会合及び国際科学会議第 102 回理事会
(Meeting of ICSU International Scientific Union Members 及び ICSU 102nd Meeting
of Executive Board) 出席に係る会員の派遣

- 1 提 案 者 国際委員会委員長
- 2 議 案 標記について、下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 国際科学会議ユニオン会員会合及び国際科学会議第 102 回理事会に以下のとおり会員を派遣することとしたい。
- 4 派遣者 黒田 玲子（第三部会員）
- 5 委員会期間 ユニオン会員会合 平成 2 2 年 4 月 7 日（水）～ 8 日（木）
第 102 回理事会 平成 2 2 年 4 月 9 日（金）～ 1 0 日（土）
- 6 派遣場所 パリ（フランス）
- 7 開催趣旨 国際科学会議（ICSU）ユニオン会員会合は、ICSU 総会間の中間にユニオン会員代表及び理事会役員が出席して開催される。今回の議題は、議長を中心に検討中であるが、次期 ICSU 戦略計画策定中であることに鑑み、重点科学分野等を議論する他、各ユニオン会員の活動及び ICSU の活動について紹介、議論を行う予定である。
また、今回の ICSU 理事会では、ICSU の各種活動及び委員会からの報告について議論を行う。

1 3	
幹事会	9 0

提 案

STS forum 評議会 (The Science and Technology in Society (STS) forum Council Meeting) 出席に係る会員の派遣

- 1 提 案 者 国際委員会委員長
- 2 議 案 標記について、下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 STS forum 評議会に下記のとおり会長を派遣することとしたい。
- 4 派遣者 金澤 一郎 会長
- 5 評議会期間 平成 2 2 年 4 月 1 9 日 (月)
- 6 派遣場所 ベルリン (ドイツ)
- 7 開催趣旨 本会合は、STS forum (2010 年 10 月 3 日 ~ 5 日、京都で開催予定) の準備会合として、プログラム及びスピーカーの推薦などの会議内容等に関して意見交換を行うことを目的として、理事 (Board Member) 及び評議員 (Council Member) 出席で開催される。なお、金澤会長は 2006 年 10 月より評議員に就任している。

14	
幹事会	90

提 案

インターアカデミーカOUNシル*¹理事会及び IAC / IAP*² ジョイントミーティング等への会員の派遣

- 1 提 案 者 若手アカデミー委員会委員長
- 2 議 案 標記について、日本学術会議から唐木英明第二部会員及び塚原東吾連携会員を派遣すること
- 3 提案理由 IAC 理事会及び IAP / IAC ジョイントミーティングに以下のとおり会員を派遣することとしたい。
- 4 派遣者 唐木英明 (第二部会員、若手アカデミー委員会委員長)
塚原東吾 (連携会員、若手アカデミー委員会委員)
- 5 会議期間 IAC 理事会 平成 22 年 3 月 21 日 (日) ~ 22 日 (月)
IAP / IAC ジョイントミーティング
平成 22 年 3 月 23 日 (火)
- 6 派遣場所 アムステルダム (オランダ)
- 7 開催趣旨 IAC 及び IAP は、若手アカデミーに関する国際ワークショップの開催等、欧州の若手アカデミーとの共同事業を行っている。また、前年の同会合 (IAP / IAC ジョイントミーティング) では、オランダ王立アカデミー及びヨーロッパ・アカデミー連合から若手アカデミーについての報告があり、若手科学者によるアカデミー関連の活動とその効果・意義等が紹介されており、本年も同様の報告が見込まれている。更に、本会合の開催場所であるオランダアカデミー (KNAW : Royal Netherlands Academy of Arts and Sciences) には、オランダアカデミーの若手アカデミー事務局及び全欧州アカデミー (ALLEA : All European Academies) 事務局が設置されている。そのため、唐木英明会員及び塚原東吾連携会員を当該会議に派遣し、欧州の若手アカデミーについての情報を入手することとしたい。会合の概要等については別添資料を参照のこと。

*¹ IAC : InterAcademy Council

*² IAP : InterAcademy Panel on international issues

15	
幹事会	90

提 案

平成 24 年度開催国際会議の共同主催候補について

- 1 提 案 者 会長
- 2 議 案 平成 24 年度開催国際会議の共同主催候補は、下記の 7 件とする。
- 3 提案理由 標記について、共同主催の申請があった平成 24 年度開催国際会議に関する国際委員会国際会議主催等検討分科会の審議に基づき、提案するものである。

記

- ・ 第 14 回 IACIS 国際会議
- ・ 第 25 回ニュートリノ・宇宙物理国際会議
- ・ 第 26 回国際計量生物学会議
- ・ 第 16 回国際アルコール医学生物学会総会
- ・ 第 19 回国際質量分析会議
- ・ 第 32 回国際泌尿器科学会総会
- ・ 第 21 回パターン認識国際会議

< 参考 > 「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」(抄)

(共同主催の決定)

第 34 条 会長は、前条の審議結果に基づき、幹事会の議決を経て共同主催の候補を決定する。

2 会長は、共同主催の候補となった国際会議に関する予算措置をもって共同主催を決定し、その旨を申請者に通知するものとする。

内閣府日本学術会議[平成24年度共同主催国際会議候補一覧]

会議名		開催予定情報			
1	第14回IACIS国際会議 14th International Association of Colloid and Interface Scientists Conference(IACIS Conference) ■ 母体団体: 国際コロイド・界面科学者連盟 (IACIS: International Association of Colloid and Interface Scientists) ■ 主催学会: 社団法人 日本化学会	参加人数	国外	400 同伴者	15
			国内	600 同伴者	15
			合計	1000 合計	30
		国数	[37カ国]		
		会議内容	会議テーマ: - 主要題目: 溶液中の分子集合体、微粒子・コロイド分散系、超分子組織化システム、ナノ構造表面と材料、コロイドおよび界面化学の手法、テクノロジー 応用と製品		
2	第25回ニュートリノ・宇宙物理国際会議 The International Conference on Neutrino Physics and Astrophysics (Neutrino2012) ■ 母体団体: 国際ニュートリノ委員会(INC: International Neutrino Commission) 国際純粋・応用物理学連合 C11分化(素粒子と場)[予定] (IUPAP: International Union of Pure and Applied Physics C11: Commission on Particles and Fields) ■ 主催学会: 社団法人 日本物理学会	参加人数	国外	250 同伴者	30
			国内	150 同伴者	10
			合計	400 合計	40
		国数	[26カ国/1地域]		
		会議内容	会議テーマ:「ニュートリノ振動の究明、ニュートリノ質量の研究、ニュートリノと宇宙物理の新たな展開」 主要題目: 太陽ニュートリノ、原子炉ニュートリノ、大気ニュートリノ、など		
3	第26回国際計量生物学会議 26th International Biometric Conference (IBC2012) ■ 母体団体: 国際計量生物学会 (IBS: International Biometric Society) ■ 主催学会: 日本計量生物学会	参加人数	国外	450 同伴者	80
			国内	350 同伴者	20
			合計	800 合計	100
		国数	[49カ国/1地域]		
		会議内容	会議テーマ:「計量生物学の社会貢献」 主要題目: 臨床試験による治療法の有効性評価、ゲノム創薬、医薬品市販後の安全性の検証、環境汚染物質アセスメント、などに関する統計的方法		
4	第16回国際アルコール医学生物学会総会 The 16th congress of International Society for Biomedical Research on Alcoholism (ISBRA) ■ 母体団体: 国際アルコール医学生物学会 (ISBRA: International Society for Biomedical Research on Alcoholism) ■ 主催学会: 日本アルコール・薬物医学会	参加人数	国外	350 同伴者	50
			国内	350 同伴者	50
			合計	700 合計	100
		国数	[32カ国/3地域]		
		会議内容	会議テーマ:「21世紀におけるアルコール・薬物依存の医学生物学の潮流 - グローバルな研究・臨床の展開」 主要題目: アルコール・薬物依存の治療戦略 - 基礎と臨床、アルコール関連問題と自殺、アルコール・薬物依存と犯罪、高齢化社会における飲酒問題対策、など		
5	第19回国際質量分析会議 19th International Mass Spectrometry Conference (IMSC) ■ 母体団体: 国際質量分析協会 (IMSF: International Mass Spectrometry Foundation) ■ 主催学会: 日本質量分析学会	参加人数	国外	950 同伴者	225
			国内	1000 同伴者	25
			合計	1950 合計	250
		国数	[40カ国/2地域]		
		会議内容	会議テーマ:「21世紀のグローバル課題を解決する質量計測科学(仮題)」 主要題目: 気相化学(イオン化、解離)、質量分離科学、粒子検出計測科学、応用研究、など		
6	第32回国際泌尿器科学会総会 32nd Congress of the Société Internationale d' Urologie (SIU) ■ 母体団体: 国際泌尿器科学会 (SIU: Société Internationale d' Urologie) ■ 主催学会: 社団法人 日本泌尿器科学会	参加人数	国外	3000 同伴者	200
			国内	1500 同伴者	50
			合計	4500 合計	250
		国数	[105カ国/2地域]		
		会議内容	会議テーマ:「泌尿器科学の新たな未来を拓く」 主要題目: 前立腺癌、腎癌を含む各種泌尿器科領域の癌、前立腺肥大症を含む閉塞性下部尿路疾患、過活動膀胱、尿路結石症などの最新の診断・治療についての基調講演及びパネ尔討論、など		
7	第21回パターン認識国際会議 The 21st International Conference on Pattern Recognition (ICPR2012) ■ 母体団体: 母体団体: パターン認識国際連盟 (IAPR: International Association for Pattern Recognition) ■ 主催学会: 社団法人 情報処理学会、 社団法人 電子情報通信学会 情報・システムソサイエティ	参加人数	国外	600 同伴者	-
			国内	300 同伴者	-
			合計	900 合計	-
		国数	[40カ国/2地域]		
		会議内容	会議テーマ:「人を支援する技術としてのパターン認識」 主要題目: コンピュータ視覚とロボット視覚、仮想現実感と医用応用、パターン認識、信号音声ビデオ処理、文書解析		

16	
幹事会	90

提 案

シンポジウム「若手アカデミーとは何か（仮題）」の開催について

- 1．提案者 若手アカデミー委員会委員長
- 2．議 案 標記シンポジウムを以下の通り開催すること

記

- 1．主 催 日本学術会議 若手アカデミー委員会
- 2．後 援 大阪大学
- 3．協 力 大阪大学 21世紀懐徳堂
- 4．日 時 平成22年3月4日（木）13：30～16：30
- 5．場 所 大阪大学中之島センター佐治敬三メモリアルホール

6．開催趣旨

近年、ヨーロッパの一部の国（現在、オランダ、ドイツ、オーストリアの3ヶ国）のアカデミーで、30代を中心とする若手研究者からなる部門が設置され、若手アカデミー（Young Academy）として、学際的・国際的な交流活動や、科学と社会をつなぐ活動等に関して、独自の取組みを展開するということが行われている。

その上で、こうしたヤングアカデミー活動の一層の普及拡大を図ろうとする動きがあり、2つの方向からこのための取組みが展開されている。一つは IAP（InterAcademy Panel¹）と世界経済フォーラムとの連携を通じた取組みであり、IAP と世界経済フォーラムは、2年間にわたって、中国で開催されるサマダボス会議に各国の優秀な若手研究者を招聘して、若手研究者の役割について議論を行ってきた。ここでの活動をベースとして、本年2月に、ベルリンで、Global Young Scientist Academy (GYSA) の設立と、各国での若手アカデミー設立推進とを目的とした国際ワークショップが開催されたが、本若手アカデミー委員会も、同ワークショップに4名の若手研究

¹ 正式名称：InterAcademy Panel on International Issues

者の派遣を行った。

もう一つは、ヨーロッパで全欧の若手アカデミーを設立しようという取組みであり、こちらは IAP の協力機関である IAC (InterAcademy Council) との連携の下に、ALLEA (ALL European Academies, 欧州科学人文学会議連合) が中心的な議論の場となっている。

今回、ALLEA 事務局長のクライン博士が来日する機会を活用し、同博士から、全欧の若手アカデミーの設立に向けた動き等について紹介いただくとともに、併せてベルリンのワークショップに参加した若手研究者からの報告を行い、日本におけるこの問題に対する今後の取組みの在り方を検討するシンポジウムを開催する。

6 . 次 第

- (1) 挨 拶 鷲田清一 (大阪大学総長、日本学会議連携会員)
- (2) 講 演 「ヨーロッパの若手アカデミーについて」 (仮題) 講演 30 分、質疑 10 分程度
ルーディガー・クライン (ALLEA 事務局長)
- (3) 講 演 「若手研究者の国際交流施策について」 (仮題) 講演 15 分程度
加藤隆行 (日本学術振興会国際事業部研究協力第二課長)
- (4) 報告と提案 ベルリンで開催された国際ワークショップの参加者 各 15 分程度
(いずれも若手アカデミー委員会委員)
竹村仁美 (九州国際大学法学部准教授)
中村征樹 (大阪大学大学教育実践センター准教授)
駒井章治 (奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科准教授)
田中由浩 (名古屋工業大学 (おもひ領域) 助教)
- (5) 会場との質疑応答も交えたパネルディスカッション 60 分程度
パネラー ルーディガー・クライン、竹村仁美、中村征樹、駒井章治、
田中由浩、渡辺向陽 (フィンランド・オウル大学計測研究所主任研究員)
司 会 塚原東吾 (神戸大学大学院国際文化学研究科教授 若手アカデミー委員会委員)
- (6) 挨拶 唐木英明 (日本学会議副会長、若手アカデミー委員会委員長)

17	
幹事会	90

提 案

「25%CO₂削減に向けたものづくり戦略」の開催について

1. 提案者 機械工学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催：日本学術会議機械工学委員会生産科学分科会
2. 共 催：エコデザイン推進機構（予定）、生産学術連合会議
3. 後 援：（財）製造科学技術センター（予定）
4. 日 時：平成22年3月12日（金）13：00～17：00
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会の開催：平成22年3月12日（金）12：00～13：00
7. 開催趣旨：国では2020年に1990年比で25%CO₂削減を国内外に宣言しました。この政策立案を支援できるように、日本学術会議機械工学委員会生産科学分科会として、ものづくり分野からの貢献の可能性・役割を学術的に検討し、広く一般に広報するためにシンポジウムを開催します。
8. 次 第：

13:00-15:00 基調講演（各24分）

- ・「ものづくりにおける省エネ・資源循環の現状とあり方」
木村 文彦（日本学術会議第三部会員、法政大学教授）
- ・「省エネ・低炭素技術と学術の貢献」
井上 孝太郎（日本学術会議連携会員、（独）科学技術振興機構 上席フェロー）
- ・「鉄鋼素材産業における省エネ・低炭素技術の現状と課題」
木内 学（日本学術会議連携会員、帝京平成大学教授）

- ・「自動車産業における省エネ・低炭素技術の現状と課題」
小林 敏雄（日本学術会議連携会員、(財)日本自動車研究所所長）
- ・「電器産業における省エネ・低炭素技術の現状と課題」
稲葉 道彦（(株)東芝技監）

15:00-15:10 休憩

15:10-17:00 パネル討論

コーディネーター：

古川 勇二(日本学術会議第三部会員、職業能力開発総合大学校長)

パネリスト：

上記6名および機械工学委員会生産科学分科会委員,その他機関からのパネリストを予定

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

18	
幹事会	90

提 案

公開シンポジウム「ネットワーク社会と知識労働：コモンウェルスの構築を目指して（仮）」
の開催について

1. 提案者 第一部長、社会学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること

記

1. 主 催 日本学術会議社会学委員会メディア・文化研究分科会
2. 共 催 国際文化会館
3. 後 援 早稲田大学メディア・シティズンシップ研究所、東京大学大学院情報学環、法政大学、
学習院大学、東京藝術大学、日本社会情報学会（JASI）、日本社会情報学会（JSIS）、情
報通信学会、社会学系コンソーシアム、日本社会学会、日本マス・コミュニケーション
学会
4. 日 時 2010年4月10日（土）午後1時～5時
5. 場 所 日本学術会議講堂
6. 分科会 同日に分科会開催予定
7. 開催趣旨

情報テクノロジーの進歩に伴ったグローバル化の過程で、私たちの社会は大きく変化しつつある。国家や資本主義、＜公＞と＜私＞の区分といった基本的な枠組みや概念を再検討する時期が来ているのである。とりわけ、伝統的な製造業に代わって、文化やメディア、金融や情報、サービスといった非物質的な生産を基盤とする新しい産業が中心になる一方で、グローバルな規模での分業が広がり、国内では流動化と二極化が進行するにつれ、＜労働＞というカテゴリーは大きく変容しつつある。

ネットワーク社会における＜労働＞を、どのように理解すればいいのか。新しく生まれつつある政治や経済、文化の枠組みをどのように考えるべきなのか。本シンポジウムは、こうした新しいグローバルな資本主義と政治権力を＜帝国＞という言葉で分析したアントニオ・ネグリの、基調講演に迎え、「ネットワーク社会における＜労働＞の問題」を議論する。

基調講演では、アントニオ・ネグリが、＜帝国＞をはじめ、彼が共著者のマイケル・ハートとともに近年提唱してきた、＜マルチチュード＞、＜共（コモン）＞という概念を中心に、新しいネットワーク社会がもたらした＜労働＞の特徴を分析するとともに、その問題点と可能性を議論する。特に、情報やメディア、文化や教育、サービスのような非物質的な生産を行っている＜労働＞に焦点をあてる。

シンポジウムの前半の報告では、まず市田良彦（神戸大学）がネグリの思想と実践を西洋思想史の枠組みに位置づけるとともに、その理論的射程について議論する。次に湯浅誠（自立生活サポートセンター・もやい事務局長）は、日本の格差社会や貧困問題を社会運動の現場から紹介することを通じて、労働条件の近年の変化がいかに二極化と貧困を招いているのかを議論する。三人目の報告者である上野千鶴子（東京大学）は、フェミニズムの観点から女性の労働の変化と現状を紹介しつつ、ネグリの議論を検討する。最後に、毛利嘉孝（東京芸術大学）は、文化実践の現場にいる若者たちの＜労働＞と、彼ら／彼女たちが文化的な実践をどのように政治的な活動と結びつけているのかを考察する。

シンポジウムの後半は、ネグリの基調講演と各報告を受けて、ネグリの思想と実践を日本でどのように受け取り、何を返すことができるのか、グローバルな＜労働＞の現場の連帯やグローバルな知識人のネットワークの場をどのように構成していくことができるのかを議論する。

8. 次 第

- (1) コーディネーター 伊藤 守（早稲田大学教授・日本学術会議連携会員）
基調講演（60分） アントニオ・ネグリ
- (2) 報告：4名（各20分～80分程度）
市田 良彦（神戸大学教授）
湯浅 誠（自立生活サポートセンター・もやい事務局長）
上野千鶴子（東京大学教授・日本学術会議会員）
毛利 嘉孝（東京芸術大学准教授・日本学術会議連携会員）
- (3) 応答
アントニオ・ネグリ
- (4) 討議：80分程度
- (5) 閉会挨拶：
吉見 俊哉（東京大学教授・日本学術会議連携会員・メディア・文化研究分科会委員長）

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

19	
幹事会	90

提 案

公開シンポジウム「『生命動態システム科学』シンポジウム
～生命の動的理解・予測・制御を目指して～」の開催について

1. 提案者 基礎生物学委員会委員長、基礎医学委員会委員長、臨床医学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催：日本学術会議基礎生物学委員会、基礎医学委員会・臨床医学委員会合同基礎・臨床医学研究グランドデザイン検討分科会
2. 共 催：生物物理学会、分子生物学会、生化学会、「細胞を創る」研究会
定量生物の会、JST 戦略センター、理化学研究所 他（調整中）
3. 後 援：文部科学省（調整中）
4. 日 時：平成22年5月7日（金）13：30～17：50
5月8日（土）10：00～17：00
5. 場 所：日本学術会議講堂
（分科会とシンポジウム控え室として、会議室3室を使用）
6. 分科会の開催：同日委員会・分科会を開催予定
7. 開催趣旨：
本シンポジウムの目的は、長期的な生命科学の発展に資するため、日本の生命科学コミュニティにおいて「生命の動的理解」に繋がる研究活動についての理解を増進し、議論を興隆させることにある。その目的のため、諸分野の相互理解を深め研究の将来像を描くと共に、今後の重点研究課題・融合研究課題について議論を進めるべく、幅広い分野の指導的研究者

を集め、ここにシンポジウムを開催するものである。

8. 次 第：

プログラム（案）

5月7日（金）

13:30 - 14:00 挨拶

14:00 - 15:00 基調講演

15:00 - 15:20 （休憩）

15:20 - 17:50 6 演題（各演題 25 分：発表 15 分、討論 10 分）

5月8日（土）

10:00 - 11:40 4 演題（各演題 25 分：発表 15 分、討論 10 分）

11:40 - 13:30 （昼食休憩）

13:30 - 14:30 2 演題 または長めの講演

14:30 - 15:30 パネル討論 1: 生命の動的理解に向けたアクションプラン 1

15:30 - 15:45 （休憩）

15:45 - 16:30 パネル討論 2: 生命の動的理解に向けたアクションプラン 2

16:30 - 17:00 まとめと結論

講演予定者（調整中）

【挨拶、展望】

金澤 一郎 [日本学術会議]（日本学術会議会長）

郷 通子 [情報・システム研究機構]（日本学術会議連携会員）

中西 重忠 [大阪バイオサイエンス研究所]

平尾 公彦 [理化学研究所]（日本学術会議連携会員）

谷口 直之 [大阪大学]（日本学術会議会員 基礎・臨床医学研究グランドデザイン検討分科会委員長）

【全体構想（基調講演）】

柳田 敏雄 [大阪大学]（日本学術会議会員 基礎生物学委員会委員）

【計測】

分析化学 升島 努 [広島大学]

産業界（装置開発）神原 秀記 [日立製作所]

光科学 徳永 万喜洋[東京工業大学]

プローブ開発 宮脇 敦史 [理化学研究所]

【計算・理論】

数理科学 金子 邦彦 [東京大学]

計算生物学 泰地 真弘人[理化学研究所]

【生命科学への応用】

医療、医工学 末松 誠 [慶応大学]

細胞生物学	松田 道行	[京都大学]
産業界（製薬）	西島 和三	[持田製薬]
合成生物学	四方 哲也	[大阪大学]
医用生体工学	岡野 光夫	[東京女子医大学 / 早稲田大学] (日本学術会議会員)
分子生物学	近藤 孝男	[名古屋大学] (日本学術会議連携会員)
	塩見 美喜子	[慶應大学]
【パネル討論モデレータ】		
パネル討論	笹井 芳樹	[理化学研究所]
	野地 博行	[大阪大学]

9 . 関係部の承認の有無：第二部承認

20	
幹事会	90

提 案

公開シンポジウム「心と身体から教育を考える」の開催について

1. 提案者 心理学・教育学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること

記

1. 主 催 日本学術会議心理学・教育学委員会心と身体から教育を考える分科会
2. 共 催 (財)体質研究会、(財)慢性疾患・リハビリテーション研究振興財団
3. 後 援 京都新聞(交渉中)
4. 日 時 平成22年5月9日(日)10:30~16:30
5. 場 所 京都大学医学部芝蘭会館
6. 分科会 同日に開催予定
7. 開催趣旨

いじめや自殺、青少年犯罪など深刻な状況への社会的対応として、いのちの教育や心のケアの重要性が叫ばれている。だが、「いのち」や「心」といった言葉が一人歩きしてしまい、そもそも脳や心、身体はどんな連関をもつのか?教育可能なのか?善悪の判断など価値観形成にどんな関係があるのか?など、基本的な問いに十分に答えられるだけの基礎的な研究は進んでいるとはいえない。こうした反省の立場にたち、これまで分科会では、哲学、医学、心理学、体育学、教育学の委員による学際的な議論を重ねてきた。本シンポジウムでは、これまでの議論の成果を公開するとともに、心と身体など人間をトータルに捉える立場から教育を捉えなおすための新たなまなざしについて、それぞれの提言を踏まえた発表報告および討議を行う。

8. 次 第

第一部(10:30~12:30、芝蘭会館稲盛ホール)
日本学術会議シンポジウム「宇宙、心身、いのち」

司会 鈴木晶子(日本学術会議会員、京都大学教授、教育哲学)
基調講演 毛利 衛(日本学術会議会員、日本科学未来館館長、宇宙飛行士)
討論 跡見順子(日本学術会議連携会員、東京大学名誉教授・東京大学アイソトープ総合センター特任研究員、生命科学)

心身やいのちについては誰もが体感的、体験的に日常生活から考えたり感じたりしている。専門家集団の中のみ閉じられた議論ではなく、日常の感覚を大切にして、広く語り合う場を作っていくにはどうしたらよいか。宇宙体験を通して感じ取った事柄について毛利氏に語っていただくとともに、それに対して、脳研究や身体論、哲学などの領域の研究者が思いを語るとい

う形式を予定している。

第二部（14:00～16:00、芝蘭会館、稲盛ホール、芝蘭会館別館）
サイエンス・カフェ（3つのカフェを3つの会場で同時に開催）

「脳とスポーツ」

西野仁雄（日本学術会議連携会員、名古屋市立大学名誉教授・前学長、脳科学）

寒川恒夫（日本学術会議連携会員、早稲田大学教授、スポーツ人類学）

「言葉の力 - 多義性から考える」

入来篤史（日本学術会議連携会員、理化学研究所脳科学総合研究センター・リーダー、
脳科学）

藤田和生（京都大学教授、心理学）

鈴木晶子（日本学術会議会員、京都大学教授、教育哲学）

「身体を知る・身体から学ぶ」

竹森 重（日本学術会議特任連携会員、東京慈恵会医科大学準教授、生物物理学）

辻本雅史（日本学術会議連携会員、京都大学教授、教育史）

跡見順子（日本学術会議連携会員、東京大学名誉教授・東京大学アイソトープ総合
センター特任研究員、生命科学）

8．関係部の承認の有無： 第一部承認

9．参加申し込み方法、問い合わせ先

参加料は無料でどなたでも参加できますが、会場準備の都合上、参加者氏名（フリガナ明記）
職業および連絡先、サイエンスカフェの参加希望分科会番号、懇親会参加の有無を、
2010年4月30日（金）までに、FAXまたはE-mail（mo-inochi@taishitsu.or.jp メールにて
お申し込みの場合は件名に「第16回いのちの科学申込み」と書いて下さい）にて、下記の
（財）体質研究会までお知らせ下さい。

〒606-8225

京都市左京区田中門前町 103-5 パスツールビル5F

Tel 075-702-0824 Fax 075-702-0824

2 1	
幹事会	9 0

提 案

公開シンポジウム

「農業工学分野におけるグローバル人材養成への取組と実践」の開催について

1. 提案者 農学委員会委員長、食料科学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催：日本学術会議農学委員会農業生産環境工学分科会、農学委員会
地域総合農学分科会、農学委員会・食料科学委員会合同農業情報システム工学分科会、日本農業工学会
2. 日 時：平成22年5月13日（木）13：00～17：00
3. 場 所：東京大学弥生講堂（予定）（東京都文京区弥生1-1-1）
4. 開催趣旨：
文部科学省を始め、多数のファンディング機関において人材育成への競争的資金の投入により、学士課程レベルから、大学院、PD、若手研究者を対象とした大規模なものまで、多様な人材育成事業が進行している。農学におけるこれらの人材育成事業において、農業工学分野は大きな役割を果たしている。この状況を踏まえて、農業工学の各分野において、将来を担う人材養成の取組およびその実践についての紹介をいただく。その上で、今後の学会間連携による農業工学分野の人材育成戦略について討議する。

5. 次 第：

開会あいさつ

町田武美（日本農業工学会会長、茨城大学名誉教授、日本学術会議連携会員）
野口 伸（北海道大学教授、日本学術会議会員、日本学術会議農業情報システム工学分科会委員長）

I 講 演（13：10～16：00）

- 1) 「J A B E E」 田中忠次（J A B E E 理事、日本学術会議連携会員）

2) 「若手インターナショナルトレーニングプログラム」
豊田淨彦（神戸大学教授）

3) 「戦略的大学連携支援事業」 干場信司（酪農学園大学教授）

<休 憩>

4) 「グローバル30」 内野敏剛（九州大学教授）

5) 「教育GP」 酒井憲司（東京農工大学教授）

Ⅱ 総合討論（16：00～16：30）

閉会のあいさつ

澁澤 栄（農業機械学会会長、東京農工大学教授、日本学術会議連携会員）

6. 関係部の承認の有無：第二部承認

2 2	
幹事会	9 0

提 案

シンポジウム「環境・エネルギーと電気電子情報技術」の開催について

- 1．提案者 電気電子工学委員会 委員長
- 2．議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

- 1．主 催：日本学術会議 電気電子工学委員会
- 2．共 催：なし
- 3．後 援：

(社)電気学会、(社)電子情報通信学会、(社)応用物理学会(予定)、
 (社)映像情報メディア学会、(社)計測自動制御学会、(社)照明学会、
 (社)情報処理学会
- 4．日 時：平成22年 5月28日(金) 13:30～17:00
- 5．場 所：日本学術会議 講堂
- 6．分科会の開催：なし
- 7．開催趣旨：工学体系の根幹の一つである電気電子工学は、急速に発展する科学技術の基盤として現代に不可欠な学術分野を形成している。環境・資源の有限性が明白となると共に少子高齢化社会へと変質する時代にあって、さらなる技術革新や人材育成が、わが国ひいては人類の持続可能社会を目指す上での鍵である。社会生活に現れるあらゆる場面で電気電子工学によって得られた工学技術が活用されることで、安心・安全で、物質的・精神的により豊かな社会へと持続的に発展する社会を実現することが出来る。産業における電気電子工学もこれまで同様に今後の社会の前進のための原動力であり、その健全な発展

がわが国の支えとなることは論を俟たない。しかし、若者の理科離れや電気電子工学分野離れが顕著となり、我が国の誇るものづくりの伝統を早晚にも喪失するのではないかと危惧され始めている。本シンポジウムでは社会が大きな変革期を迎えるにあたり、今後進むであろう状況変化を考究すると共に、持続可能な社会の基盤となる環境・エネルギー問題と電気電子情報技術の関わりを中心に議論することを目的とする。

8．次 第：

開催挨拶 田中 英彦 氏（日本学術会議 電気電子工学委員会委員長）
基調講演 伊澤 達夫 氏（日本学術会議 電気電子工学委員会副委員長）
基調講演 Wanda Reder 氏（IEEE PES President）
その他 講演 3 件

9．関係部の承認の有無：第三部承認

10．申し込み方法・連絡先

入場無料

一般来場者の事前申し込み不要

連絡先：

日本学術会議 電気電子工学委員会 幹事
慶應義塾大学 理工学部 システムデザイン工学科 教授
大西 公平
TEL: 045-566-1726
FAX: 045-563-2754
E-mail: ohnishi@sd.keio.ac.jp

23	
幹事会	90

提 案

安全工学シンポジウム 2010 の開催について

1. 提案者 総合工学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催：日本学術会議 総合工学委員会
2. 共 催：安全工学会(幹事学会) 化学工学会火薬学会 計測自動制御学会
自動車技術会 静電気学会地域安全学会 電気学会 電気化学会
電気設備学会 電子情報通信学会 土木学会 日本化学会 日本
火災学会 日本機械学会 日本技術士会 日本経営工学会 日本
計算工学会 日本原子力学会 日本建築学会日本高圧力技術協
会 日本航空宇宙学会 日本材料学会 日本シミュレーション学会
日本信頼性学会 日本心理学会 日本船舶海洋工学会 日本素材
物性学会 日本鉄鋼協会 日本人間工学会 日本燃焼学会 日本
非破壊検査協会 日本プラントメンテナンス協会 日本溶接協会 日本流
体力学会 日本冷凍空調学会 腐食防食協会 粉体粉末冶金協会
溶接学会 日本保全学会
3. 後 援：なし
4. 日 時：平成 22 年 7 月 9 日(木) 9:40~7 月 10 日(金) 16:00
5. 場 所：日本学術会議講堂・会議室(東京都港区六本木 7-22-34)
(会議室数 4 室、並列セッションの開催に使用。)
6. 分科会の開催：なし
7. 開催趣旨：
わが国における安全に関する学際的なシンポジウムとして学術会議主催で
40 年間にわたり継続して実施されてきている。毎年幹事学会が順番で担当し
実行委員会を組織しテーマを決めて実施する。本年は第 40 回の記念大会とし
て安全工学会が幹事学会となり企画・運営を行っている。共催学会名にみら
れるように多分野の研究者の発表の場であり、意見交換の場ともなっている。

異分野間での安全に対する取り組みの差異、あるいは共通する理念について有意義な意見交換が期待でき、学術会議総合工学委員会、安全・安心・リスク検討分科会で進めている「安全の理念」、「安全目標」、「交通事故ゼロの達成」、「事故調査のあり方」、「遺棄・老朽化学兵器」の検討成果の広く一般への発表がなされ、多分野の専門家からの意見集約も期待できる。

8．次 第：

開会あいさつ：矢川 元基（東洋大学、日本学術会議第三部会員）

特別講演

パネルディスカッション

「統合センシングによるヒューマンエラーと安全・安心・リスクの科学的解明」

（コーディネータ：永井正夫、東京農工大学教授、日本学術会議連携会員）

他

オーガナズドセッション

1) 「化学兵器の廃棄処理の安全対策」

（コーディネータ：古崎新太郎、日本学術会議連携会員）

2) 「科学的事故調査とはいかにあるべきか」

（コーディネータ：松岡猛、宇都宮大学教授、日本学術会議連携会員）

他

一般講演

閉会あいさつ：三宅 淳巳実行委員長（横浜国立大学大学院教授）

参加申込方法

参加自由 - 入場無料

問合せ先 安全工学会、安全工学シンポジウム 2010 事務局

担当：松倉邦夫（jsse-2004@nifty.com）

〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町 3-5-2 アロマビル 6F

TEL：03-6206-2840 / FAX：03-6206-2848

9．関係部の承認の有無：第三部承認

2 4	
幹事会	9 0

提 案

「第 29 回 混相流シンポジウム」の開催について

- 1 . 提案者 機械工学委員会委員長
土木工学・建築学委員会委員長
- 2 . 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

- 1 . 主 催：日本学術会議 機械工学委員会
土木工学・建築学委員会
- 2 . 共 催： なし
- 3 . 後 援： なし
- 4 . 日 時：平成 22 年 7 月 18 日（日）9：00 ～11：50
- 5 . 場 所： 静岡大学浜松キャンパス（浜松市城北 3-5-1）佐鳴会館
- 6 . 分科会の開催： なし
- 7 . 開催趣旨：

本シンポジウムでは、「先端光技術と混相流の関わり」をテーマに、斯界の第一人者に講演をしていただく予定です。混相流の学理や計測技術に密接に関連した最先端の光科学・技術の研究を中心にし、今後の混相流分野の新しい展開への糸口を考える機会にしたいと考えております。なお、本シンポジウムでの講演は、科学・技術に興味をもつ一般市民の方々にも興味深い内容であり、混相流を中心とした分野の最前線を多くの人々に知っていただける良い機会でもあります。

- 8 . 次 第：

総合司会 内山 知実（名古屋大学教授）

開会の挨拶 9:00～9:05

日本混相流学会会長 三重大学教授 社河内 敏彦 氏

主催者講演 9:05～9:20

講師：日本学術会議第三部会員 東京工業大学教授 池田 駿介 氏

題目：“日本学術会議「日本の展望」と混相流シンポジウムの意義”

招待講演

9:20～10:00

講師：中部電力(株) 工務技術センター マガソーラー開発グループ 主幹 原 義幸 氏

題目：“大規模太陽光発電所の開発に向けた当社の取り組みについて”

10:00～10:40

講師：光産業創成大学院大学 光情報・システム分野 教授 瀧口 義浩 氏

題目：“光応用の極限を目指して”

10:50～11:30

講師：静岡大学工学部 機械工学科 教授 川田 善正 氏

題目：“フェムト秒レーザーを用いた光ナノ加工と3次元計測”

主催者総括 11:30～11:45

講師：日本学術会議第三部会員 芝浦工業大学長 柘植 綾夫 氏

題目：“第29回混相流シンポジウムの総括と今後のシンポジウム”

閉会の挨拶 11:45～11:50

第29回混相流シンポジウム実行委員長 静岡大学教授 齋藤 隆之 氏

【シンポジウム参加費】：無料

【申込先および問い合わせ先】

〒432-8561 浜松市城北3-5-1

静岡大学工学部機械工学科

日本混相流学会年会講演会2010・第29回混相流シンポジウム実行委員会事務局

真田 俊之

Tel: 053-478-1605、 Fax: 053-478-1605、

E-mail: djsmf10@ipc.shizuoka.ac.jp

9. 関係部の承認の有無： 第三部承認

2 5	
幹事会	9 0

提 案

公開シンポジウム「 “ 健康な食習慣 ” の獲得・健康なコミュニティの形成
- 身体活動、睡眠、タバコと食の関連、及びその波及から - 」の開催について

1．提案者 臨床医学委員会委員長、健康・生活科学委員会委員長

2．提 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1．主 催：日本学術会議臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同生活習慣病対策分科会、日本栄養改善学会

2．後 援：独立行政法人国立健康・栄養研究所、厚生労働省（予定）

3．日 時：平成22年9月12日（日） 14：00～16：00

4．場 所：女子栄養大学 坂戸キャンパス 12501番教室（350名収容）
〒350-0288 埼玉県坂戸市千代田3-9-21

5．開催趣旨：

健康水準及びQOLの向上のためには、個人が健康的な生活習慣の形成・獲得することが必要である。生活習慣の中で、食習慣は、多くの生活習慣病との関連が深く重要なものである。しかし、食習慣だけが適正であればよいのではなく、身体活動、睡眠、禁煙など、他の生活習慣もふくめ、包括的に“健康な食習慣”を目指すことが重要であろう。また、個々人がそうした努力をしやすい社会規範の形成など、より健康的な地域社会（コミュニティ）の形成も併せて実現していく必要がある。

そこで、本シンポジウムでは、食以外の生活習慣として、身体活動、睡眠、タバコをとりあげ、それらと「食」との関係を整理・検討する。その上で、個人がこれらのうちの1つを改善することで他の生活習慣の改善につながる「個人内の波及」や、個人の生活習慣の改善が周囲の人々に影響を及ぼす「個人間の拡がり」、さらには健康的な生活習慣を実現しやすい「健康なコミュニティ」の形成について議論し、今後の生活習慣病予防のための包括的な知見と視点を得ることを目的とする。

6．次第

○趣旨説明

座長 武見ゆかり（5分）

（日本学術会議連携会員、女子栄養大学教授、日本栄養改善学会理事）

徳留信寛（日本学術会議連携会員、独立行政法人国立健康・栄養研究所理事長）

○シンポジストによる講演（20分×4名＋紹介時間＝85分）

（1）身体活動と「食」

宮地元彦氏（独立行政法人国立健康・栄養研究所 プロジェクトリーダー）

（2）睡眠と「食」

大川匡子（日本学術会議連携会員、滋賀医科大学特任教授）

（3）タバコと「食」

中村正和（大阪府立健康科学センター健康生活推進部長）

（4）“健康な食”とコミュニティ

村山伸子（新潟医療福祉大学教授）

○総合討議（パネルディスカッション）約30分

○閉会の挨拶

7．関係部の承認の有無：第二部承認

26	
幹事会	90

提 案

「アルプス・ヒマラヤ帯における地形プロセスとその発達に関する 国際シンポジウム」開催について

- 1．提案者 地球惑星科学委員会委員長
- 2．議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

- 1．主 催：地球惑星科学委員会 IGU 分科会
日本地形学連合
アンカラ大学

- 2．後 援：IAG（交渉中）

- 3．日 時：平成 22 年 9 月 12 日（日）～14 日（火）

- 4．場 所： トルコ・アンカラ大学

- 5．開催趣旨：

本シンポジウムは、「文明の十字路」と呼ばれ、旧大陸のほぼ中心に位置するトルコを会場として、地形プロセスとその発達に関して、東西・南北にわたる広域な比較検討を行うことを目的としている。その中心的な主題としては、以下のような諸点を予定している。変動地形と地震防災、ペディメント形成と斜面地形プロセス、河川地形と物質流動、海岸地形と海岸保全、カルスト地形と風化、環境変動と人間活動。このシンポジウムにおいて、さまざまな環境における地形とその形成プロセスを対比し、そして比較検討することによって、開発、防災、地球環境問題などさまざまな分野においての応用が可能となる。また、人的な交流および若手研究者の育成においても大きな成果がえられるものと期待される。

- 6．次 第：

9月13日 開会式において主催者として柏谷健二（IGU 分科会委員）が挨拶し、同日のセッションで野上道男（IGU 分科会委員）・田村俊和（連携会員）が講演する予定

7．関係部の承認の有無：第三部承認

8．申し込み方法・連絡先

下記にe-mailで申し込む：

日本側連絡責任者

鹿島 薫 九州大学大学院理学研究院地球惑星科学部門

812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1

Tel： 092-642-2696 Fax： 092-642-2684

e-mail： kashima@geo.kyushu-u.ac.jp

柏谷健二 金沢大学環日本海域環境研究センター

920-1192 金沢市角間町

Tel & Fax： 076-264-6531

e-mail： kashi@kenroku.kanazawa-u.ac.jp

27	
幹事会	90

提 案

シンポジウム「東アジアにおける現代の地表プロセスと長周期環境変動
(Present Earth Surface Processes and Long-term Environmental Changes
in East Asia) 」の開催について

- 1 . 提案者 地球惑星科学委員会委員長
- 2 . 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

- 1 . 主 催：地球惑星科学委員会 IGU 分科会
Korea Institute of Geoscience and Mineral Resources (KIGAM)
Nanjing Institute of Geography and Limnology, Chinese
Academy of Sciences (NIGLAS)
Kanazawa University, Japan
National Taiwan University, Taiwan
- 2 . 後 援：Japanese Geomorphological Union, Japan
National Science Council, Taiwan
IAG (交渉中)
- 3 . 日 時：平成 22 年 10 月 6 日 (水) ~ 10 日 (日)
- 4 . 場 所：韓国・済州島
- 5 . 開催趣旨：
本ワークショップの主な目的は、偏西風や東アジアモンスーンの影響を強く受け、気候変動に敏感な東アジア地域において湖沼—流域系等を対象に、現代における地表プロセスの解明と長周期環境変動に関する情報を交換することである。陸域堆積物 (湖沼等) 記録には海洋堆積物など他のデータと比べていくつかの利点がある。その利点とは、自然変動の記録だけでなく、人為的な活動に関する記録を含む高解像度の記録が得られるとともに観測時代の記録に接続

可能となることである。適切なアプローチと方法を用いることにより、堆積物記録や観測記録からの環境情報が、人間活動による影響が敏感な地域における詳細な環境プロセスや変化の手がかりを与えることになる。

6．次 第：

10月7日 開会式において主催者として柏谷健二(IGU分科会委員)が挨拶し、
10月8日のセッションで野上道男(IGU分科会委員)・沖村孝(連携会員)が講演する予定

7．関係部の承認の有無：第三部承認

8．申し込み方法・連絡先

下記にe-mailで申し込む：

日本側連絡責任者

柏谷健二 金沢大学環日本海域環境研究センタ -

920-1192 金沢市角間町

Tel & Fax: 076-264-6531

e-mail: kashi@kenroku.kanazawa-u.ac.jp

2 8	
幹事会	9 0

提 案

国内会議の後援

- 1 提 案 者 会 長
- 2 議 案 後援の依頼について回答すること。
- 3 提案理由 下記の会議について、後援の依頼があり、関係する部等に審議付託した結果を下記のとおり回答することとしたい。

記

○後援する

名 称 等	申 請 者	審 議 付託先
第 4 回日本化学連合シンポジウム「日本の科学技術を担う研究者を育てる」 主催：日本化学連合 期間：平成 22 年 3 月 16 日 場所：化学会館	日本化学連合会 長	第三部
防災シンポジウム in 松山 主催：社団法人日本河川協会 期間：平成 22 年 3 月 18 日 場所：愛媛大学	社団法人日本河 川協会会長	第三部
「日本のテレビは何故北を向く？」 - ホームリビングと人間工学の新機軸 - 公開講座 主催：一般社団法人日本人間工学会 期間：平成 22 年 3 月 23 日 場所：成蹊大学	一般社団法人日 本人間工学会理 事長	第二部 第三部
国際惑星地球年（I Y P E）終了記念イベント「惑星地球フォーラム 2 0 1 0 in アキバ」 主催：国際惑星地球年日本 期間：平成 22 年 3 月 27 日～28 日 場所：富士ソフトアキバプラザ	国際惑星地球年 日本会長	第三部
土と肥料の講演会 主催：社団法人日本土壌肥料学会 期間：平成 22 年 4 月 4 日 場所：学士会館	社団法人日本土 壌肥料学会会長	第二部

第 9 9 回日本病理学会総会 シンポジウム「新しい世紀の病理解剖」 主催：社団法人日本病理学会 期間：平成 22 年 4 月 28 日 場所：京王プラザホテル	第 99 回日本病理学会総会会長	第二部
呼吸の日記念フォーラム 2 0 1 0 主催：社団法人日本呼吸器学会、財団法人結核予防会、社団法人日本医師会 期間：平成 22 年 5 月 9 日 場所：大阪国際会議場	社団法人日本呼吸器学会理事長 財団法人結核予防会理事長 社団法人日本医師会会長	第二部
日本土壌微生物学会シンポジウム 主催：日本土壌微生物学会 期間：平成 22 年 5 月 21 日～22 日 場所：東京大学	日本土壌微生物学会会長	第二部